

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゅせ え いしゅよ、イウデヤのひとはかを  
 救世主 人墓  
 ふうじて、へいそつなんぢのいさぎよきみを  
 封兵卒爾 潔 軀  
 まもるとき、なんぢはみつかめにふくかつ  
 守時 爾 三日目 復活  
 して、せかいにいのちをたまえり。  
 せ 界 生 命 賜  
 ゆえ にてんぐんはなんぢいのちをほどこすの  
 故 天軍 爾 生 命 施  
 しゅによべり、ハリストスよ、こうえいは  
 主 呼 光 榮  
 なんぢのふくかつにきし、こおえいはなんぢ  
 爾 復活 歸 し 光 榮 爾  
 のくににきす、ひとりひとをいつくしむ  
 國 歸 獨 人 慈  
 しゅよ、こうえいはなんぢのおもんばかりに  
 主 光 榮 爾 慮  
 きす。  
 歸

【 税吏とファリセイの主日のコンダク 第3調 】

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い  
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今  
 ま も い つ も よ よ お に ア ミ ン。  
 何 時 世 世  
 わ れ ら つ み な る も の は ぜ い り の た ん そ く を し ゅ  
 我 等 罪 者 税 吏 歎 息 主  
 に さ さ げ て 、 し ゅ さ い た る も の に つ か ん。  
 捧 主 宰 者 就  
 け だ し か れ は し ゅ う じ ん の す く い を の ぞ お み 、  
 蓋 彼 衆 人 救 望  
 こ と ご と く の つ う か い す る も の に ゆ る  
 悉 痛 悔 者 赦  
 し を た も お う 。 ち ち と ど う む げ ん な る か み に し  
 賜 父 同 無 限 神  
 て 、 わ れ ら の た め に じ ん た い を う け た れ  
 我 等 爲 人 體 受  
 ば な あ り 。

【 聖三の歌 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、

し ゅ よ 、 け い け ん な る も の を す く い 、 お よ び わ れ  
 主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。  
等 聆 給

代禱) <sup>よよ</sup>世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき毅、せいなる  
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのもものよ、われらをあわれめ  
常 生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき毅、せい  
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ  
常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき毅、  
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
歸 今 何 時 世 世

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇  
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを  
 殺 聖 常 生 者 我 等  
 あわれめよ。

プロキメン  
 【 提綱 主日第1調 】

代禱) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、われら<sup>しゅ</sup>なんぢ<sup>われらなんぢ</sup>を<sup>たの</sup>頼むが<sup>ごと</sup>如く、爾<sup>なんぢ</sup>の<sup>あわれみ</sup>憐<sup>われら</sup>を<sup>た</sup>我等<sup>たま</sup>に垂れ給え、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、  
 主 我 等 爾 頼 如  
 なんぢのあわれみ<sup>あわれみ</sup>をわれらに<sup>われら</sup>た<sup>た</sup>れた<sup>たま</sup>ま  
 爾 憐 我 等 垂 給  
 え。

誦經) 義人<sup>ぎじん</sup>よ、主<sup>しゅ</sup>の<sup>ため</sup>爲<sup>よろこ</sup>に喜<sup>さんえい</sup>べ、讚<sup>ぎしゃ</sup>榮<sup>かな</sup>するは義<sup>ぎ</sup>者<sup>しゃ</sup>に<sup>かな</sup>適<sup>かな</sup>う、

しゅ よ 、 われらなんぢをたのむがごとく、  
 主 我 等 爾 頼 如  
 なんぢのあわれみ<sup>あわれみ</sup>をわれらに<sup>われら</sup>た<sup>た</sup>れた<sup>たま</sup>ま  
 爾 憐 我 等 垂 給



誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>われらなんぢ</sup>我等 <sup>たの</sup>爾 <sup>ごと</sup>を頼むが如く、



【 使徒經 (アポストロス) 296 端 ティモフェイ後書3章10~15節 】

代禱) <sup>えいち</sup>睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup>聖使徒パヴェルが<sup>たつ</sup>ティモフェイに<sup>ぜんしよ</sup>達する<sup>よみ</sup>前書の讀、

代禱) <sup>つつし</sup>謹<sup>き</sup>みて聽くべし、

誦經) <sup>こ</sup>子<sup>なんぢ</sup>ティモフェイよ、<sup>わ</sup>爾は<sup>きょうくん</sup>我が<sup>ひんこう</sup>教訓、<sup>いし</sup>品行、<sup>しんこう</sup>意志、<sup>かんよう</sup>寛容、<sup>じんあい</sup>仁愛、<sup>にんたい</sup>忍耐、<sup>わ</sup>我が

アンティオキヤ、イコニヤ、リストラに在りて<sup>あ</sup>遇いし<sup>あ</sup>所の<sup>ところ</sup>窘逐、<sup>およ</sup>及び<sup>くなん</sup>苦難に<sup>おい</sup>於て、<sup>われ</sup>我に<sup>したが</sup>從

えり、<sup>こ</sup>此の<sup>きんちく</sup>窘逐は<sup>われこれ</sup>我之を<sup>しの</sup>忍び、<sup>しゅ</sup>主は<sup>われ</sup>我を<sup>ことごと</sup>悉く<sup>そのうち</sup>其中より<sup>すく</sup>救えり。<sup>およ</sup>凡そ<sup>けいけん</sup>敬虔を<sup>もつ</sup>以て、

ハリストス <sup>あ</sup>イススに<sup>いのち</sup>在りて<sup>わた</sup>生を<sup>ほつ</sup>度らんと<sup>もの</sup>欲する<sup>みなきんちく</sup>者は、<sup>あ</sup>皆<sup>ひと</sup>窘逐せられん。<sup>およ</sup>惡しき<sup>ひと</sup>人、<sup>およ</sup>及び

<sup>ひと</sup>人を<sup>あざむ</sup>欺く<sup>もの</sup>者は、<sup>ますますあく</sup>益<sup>すす</sup>惡に進みて、<sup>ひと</sup>人を<sup>まど</sup>惑わし、<sup>みづから</sup>自も<sup>まど</sup>惑わされん。<sup>しか</sup>然れども<sup>なんぢ</sup>爾は<sup>まな</sup>學

<sup>ところ</sup>びし<sup>およ</sup>所の、<sup>なんぢ</sup>及び<sup>たく</sup>爾に<sup>ところ</sup>託せられし<sup>お</sup>所に<sup>なんぢだれ</sup>居れ、<sup>まな</sup>爾誰より<sup>し</sup>學び<sup>しか</sup>しかを<sup>かつなんぢ</sup>知ればなり。且<sup>なんぢ</sup>爾は

<sup>いとけなき</sup>幼より<sup>せいしよ</sup>聖書を<sup>し</sup>知る、<sup>すなわちよ</sup>即<sup>なんぢ</sup>善く<sup>お</sup>爾に、<sup>しん</sup>ハリストス <sup>よ</sup>イススに<sup>すくい</sup>於ける<sup>よ</sup>信に<sup>よ</sup>由りて、<sup>すくい</sup>救を

<sup>え</sup>得しむる<sup>ちえ</sup>智慧を<sup>あた</sup>與<sup>もの</sup>うる者なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳)

あなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいつさいのことから、救い出して下さったのである。いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。悪人と詐欺師とは人を惑わし

人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。

\*\*\*\*\*

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第1調 】

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、

アリル イ ヤ。

誦經) <sup>ねが</sup>願わくは我が<sup>わ</sup>爲に<sup>あだ</sup>仇を<sup>かえ</sup>復し、<sup>われ</sup>我に<sup>しょみん</sup>諸民を<sup>したが</sup>従わしむる<sup>かみ</sup>神は<sup>さんしょう</sup>讃頌せられん、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、

アリル イ ヤ。

誦經) <sup>おおい</sup>大なる<sup>すくい</sup>救を<sup>おう</sup>王に<sup>ほどこ</sup>施し、<sup>あわれみ</sup>憐を<sup>なんぢ</sup>爾の<sup>あぶら</sup>膏<sup>もの</sup>つけられし<sup>およ</sup>者<sup>そのすえ</sup>ダヴィド<sup>よよ</sup>及び<sup>よよ</sup>其<sup>よよ</sup>裔に<sup>よよ</sup>世々に

<sup>た</sup>垂るる<sup>もの</sup>者よ、<sup>われなんぢ</sup>我<sup>な</sup>爾<sup>うた</sup>の名に<sup>うた</sup>歌わん、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、

アリル イ ヤ。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 89 端 18 章 10~14 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) ルカ傳の<sup>でん</sup>聖<sup>せいふくいんけい</sup>福音<sup>よみ</sup>經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

代禱) <sup>つつし</sup>謹<sup>き</sup>みて聽くべし、

誦經) 主は左の<sup>しゅ</sup>譬<sup>さ</sup>を<sup>たとえ</sup>設<sup>もう</sup>けて<sup>い</sup>曰<sup>に</sup>えり、二人<sup>に</sup>祈<sup>にん</sup>禱<sup>き</sup>せん爲<sup>に</sup>に<sup>た</sup>めに<sup>でん</sup>殿<sup>の</sup>に<sup>ぼ</sup>登<sup>ひとり</sup>れり、一<sup>ひとり</sup>は<sup>ひとり</sup>ファリセイ、一<sup>ひとり</sup>は<sup>ひとり</sup>ゼイリ。ファリセイ<sup>た</sup>立ちて、己<sup>おのれ</sup>の<sup>うち</sup>衷<sup>か</sup>に<sup>いの</sup>斯<sup>かみ</sup>く<sup>われ</sup>禱<sup>なんぢ</sup>れり、神<sup>かん</sup>よ、我<sup>しや</sup>爾<sup>われ</sup>に<sup>た</sup>感<sup>にん</sup>謝<sup>ざん</sup>す我<sup>ざん</sup>他人<sup>ざん</sup>の<sup>ざん</sup>殘<sup>ざん</sup>酷<sup>ざん</sup>、不<sup>ざん</sup>義<sup>ざん</sup>、姦<sup>ざん</sup>淫<sup>ざん</sup>なる<sup>ざん</sup>如<sup>ざん</sup>く、或<sup>ある</sup>は<sup>こ</sup>此<sup>ぜい</sup>の<sup>り</sup>税<sup>ご</sup>吏<sup>ご</sup>の<sup>ご</sup>如<sup>も</sup>く<sup>つ</sup>なら<sup>われ</sup>ざる<sup>ひ</sup>を<sup>な</sup>以<sup>ぬ</sup>て<sup>か</sup>なり。我<sup>ふた</sup>一<sup>ふた</sup>七<sup>ふた</sup>日<sup>ふた</sup>に、二<sup>ふた</sup>次<sup>ふた</sup>齋<sup>ふた</sup>し、凡<sup>ふた</sup>そ<sup>ふた</sup>得<sup>ふた</sup>る<sup>ふた</sup>所<sup>ふた</sup>の<sup>ふた</sup>十<sup>ふた</sup>分<sup>ふた</sup>の<sup>ふた</sup>一<sup>ふた</sup>を<sup>ふた</sup>獻<sup>ふた</sup>ぐと。税<sup>ふた</sup>吏<sup>ふた</sup>は<sup>ふた</sup>遠<sup>ふた</sup>く<sup>ふた</sup>立<sup>ふた</sup>ちて、敢<sup>ふた</sup>て<sup>ふた</sup>目<sup>ふた</sup>を<sup>ふた</sup>擧<sup>ふた</sup>げて<sup>ふた</sup>天<sup>ふた</sup>を<sup>ふた</sup>仰<sup>ふた</sup>がず、乃<sup>ふた</sup>膺<sup>ふた</sup>を<sup>ふた</sup>拊<sup>ふた</sup>ちて<sup>ふた</sup>曰<sup>ふた</sup>えり、神<sup>ふた</sup>よ、我<sup>ふた</sup>罪<sup>ふた</sup>人<sup>ふた</sup>を<sup>ふた</sup>憐<sup>ふた</sup>めと。我<sup>ふた</sup>爾<sup>ふた</sup>等<sup>ふた</sup>に<sup>ふた</sup>語<sup>ふた</sup>ぐ、此<sup>ふた</sup>の<sup>ふた</sup>人<sup>ふた</sup>は<sup>ふた</sup>彼<sup>ふた</sup>の<sup>ふた</sup>人<sup>ふた</sup>よ<sup>ふた</sup>りは<sup>ふた</sup>義<sup>ふた</sup>と<sup>ふた</sup>せ<sup>ふた</sup>ら<sup>ふた</sup>れて、家<sup>ふた</sup>に<sup>ふた</sup>歸<sup>ふた</sup>れり。蓋<sup>ふた</sup>凡<sup>ふた</sup>そ<sup>ふた</sup>自<sup>ふた</sup>ら<sup>ふた</sup>高<sup>ふた</sup>く<sup>ふた</sup>す<sup>ふた</sup>る<sup>ふた</sup>者<sup>ふた</sup>は<sup>ふた</sup>卑<sup>ふた</sup>く<sup>ふた</sup>せ<sup>ふた</sup>られ、自<sup>ふた</sup>ら<sup>ふた</sup>卑<sup>ふた</sup>く<sup>ふた</sup>す<sup>ふた</sup>る<sup>ふた</sup>者<sup>ふた</sup>は<sup>ふた</sup>高<sup>ふた</sup>く<sup>ふた</sup>せ<sup>ふた</sup>られん。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳)

「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりにはパリサイ人であり、もうひとりには取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとししないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮

は なんぢに き す 。  
爾 歸

※ 代式祈禱③へ